

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道212号 <small>さんこうほんやぼけい</small> 三光本耶馬溪道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：大分県中津市三光西 秣 至：大分県中津市本耶馬溪町落合	延長	12.8km		
事業概要	三光本耶馬溪道路は、地域高規格道路「中津日田道路」の一部を形成し、物流の効率化や災害に強い道路ネットワークの構築等を目的とした事業である。				
H19年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H21年度用地着手	H22年度工事着手		
全体事業費	約466億円	事業進捗率	16%	供用済延長	0.0 km
計画交通量	12,500～12,900台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 1.4	総費用 (残事業)/事業全体 307/347億円 事業費：293/333億円 維持管理費：14/14億円	総便益 (残事業)/事業全体 424/424億円 走行時間短縮便益：306/306億円 走行経費減少便益：66/66億円 交通事故減少便益：52/52億円	基準年	平成25年
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量：B/C=1.2～1.3（交通量 ±10%）【残事業】交通量：B/C=1.3～1.4（交通量 ±10%）</p> <p>事業費：B/C=1.1～1.3（事業費 ±10%）事業費：B/C=1.3～1.5（事業費 ±10%）</p> <p>事業期間：B/C=1.04～1.3（事業期間±20%）事業期間：B/C=1.2～1.5（事業期間±20%）</p>				
事業の効果等	<p>①災害に強い道路ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に国道212号の代替路になる道路ネットワークを構築 <p>②生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東九州自動車道や重要港湾中津港と一体となって各産業の経済活動及び物流の効率化を支援 <p>③交通安全性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線形不良箇所の回避が可能となり、交通安全性が向上 <p>④医療施設までのアクセス改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三次救急医療施設（新別府病院）への救急搬送時間短縮による救命率の向上 <p>⑤生活環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO₂, NO₂, SPM削減） 				
関係する地方公共団体等の意見	<p>中津市、日田市、宇佐市の3市の首長・議会議長で構成される中津日田間地域高規格道路促進期成会（会長：中津市長）等より早期整備の要望を受けている。（平成28年11月）。</p> <p>県の意見： 早期整備を強く望んでいるところであり、事業の継続をお願いしたい。</p>				
事業評価監視委員会の意見	審議の結果、事業継続。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	沿線地域の人口、一世帯当たりの自動車保有台数、及び交通量は横這い。				

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成19年度に事業化、用地進捗率59%、事業進捗率16%（平成28年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

平成30年度：中津IC～（仮称）田口IC間 延長2.8km（2/2）開通予定

施設の構造や工法の変更等

- ・本線構造の見直し 【約40億円増】
- ・補強土壁の壁面パネル大型化 【約0.2億円減】
- ・新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める

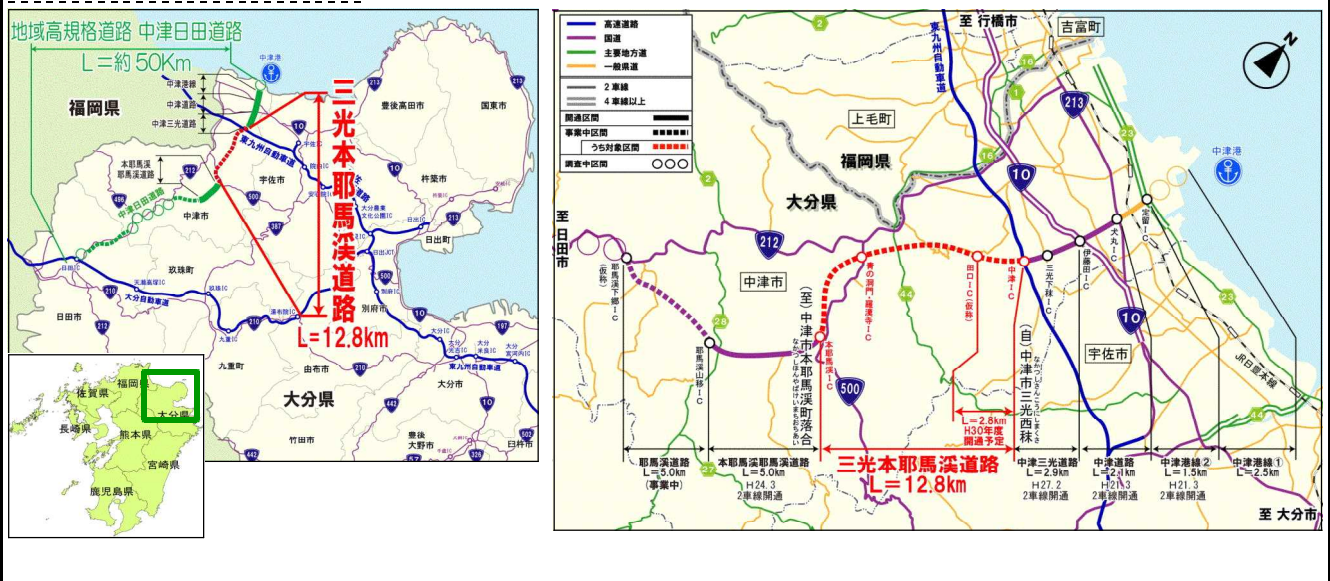
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。